

編集後記

6年間、広報委員として写真撮影、ホームページ、小冊子編集と色々な経験をさせていただきました。写真撮影は毎回撮るという作業を行うことで、色々な先生と知り合うことが出来、特に2017年の台湾認証式に出席した際には、会長、理事の先生と色々なお話をさせて頂いたことは自分にとって良い経験になりました。

(足立 徹)

新年度が始まり、全国小・中・高等学校の定期健康診が行われたところです。

ご存知の通り、う蝕経験者率も60%台に、12歳児の一人平均DMF指数も0.6と1本を下回って久しくなります。いずれも先人たちの努力のおかげですが、一方で1歳半健診や3歳児健診のように専門性が求められるような場での不満や混乱も浮かび上がっています。子育て真っ盛りの親御さんにとっては乳幼児健診は大切な情報源となる所で、具体的なコメントが求められています。まだまだ活動の場はありそうです。

(鏡 宣昭)

雑誌編集など携わったことのない私が8年前初めて広報・編集委員になり先輩フェローのもとご指導頂いたのが、まだついこの間のように感じられます。そんな私が今回広報・編集委員長として第49巻第一号を発刊できたのは鏡常任理事、井上理事のもと委員の結束とご協力のお陰です。

ICDもまた時代の流れとともにさらなる発展を続けると思います。広報・編集委員会も良き伝統を守り、その記録を確実に残してきたと思います。委員会自体も発展のための過渡期がきていていると感じています。良い流れに乗れることを大いに期待しています。

(田中康雅)

昨年6月から委員会に入れていただきました。よくわからず、委員会では見当違いな発言で、ご迷惑をおかけしましたが、暖かく見守っていただけました。ありがとうございます。今号の特別企画は、専門外の方々にも読みやすかったのですが、査読が無いので、少し不安です。今後ともICDの一員として貢献したいと思えます。

(佐藤裕二)

あっという間の一年でした。歳を重ねると月日の経過が加速すると言われますが、まさにそれを実感しつつある現在です。そんな時間経過の中で、積在する業務を遂行していくことは、老化とともに衰える体力と相まって品質の維持・向上という点からは、極めて条件悪化を痛感する次第。今後は経験による作業効率の向上を図っていきたいと思えます。

(小野清一郎)

右も左も分からないところから始めさせて頂いた広報編集委員の仕事も2年目になりました。3大事業などの行事では様々な場所に出没して写真の撮影をさせて頂きましたが、フェローの先生がた、快く撮影にご協力いただきありがとうございます。そんな活動が編集委員会を始めICDのお力になれたなら幸いです。

(田中幹久)

広報・編集委員会に所属して9年。微力ながらお手伝いさせて頂きました。今年も無事日本部会雑誌を発刊する事が出来てホッとしております。毎年、とても貴重な勉強や体験をさせて頂き、また楽しい時間を過ごす事が出来ました。

ご指導いただいた鈴木設矢フェロー、鏡宜昭フェロー、また、ご協力いただいたフェローの皆様には本当にお世話になりました。心から感謝申し上げます。

今後とも引き続き、広報・編集委員会にご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

(井上 淳子)

今年度は、平昌オリンピック以外でも海外で活躍している日本人が多い年だったように思います。選手たちは、日本を笑顔にするために一生懸命頑張っていました。私たちも同じように『他喜力』(他人を喜ばせる喜び)を大事にして、スタッフは勿論、患者様を喜ばせていきたいですね。感謝を込めて…

(白壁浩之)

ICDへ入会以来、広報・編集委員を丸4年間務めさせて頂き、会員の皆様の日ごろの活動を多岐にわたる分野の文章から拝読し、そのご活躍ぶりを垣間見ることができました。大変勉強になりました。歴代の会長や委員会の諸先生には大変お世話になりました。本当に有難うございました。

日頃は自分が所属する学会の雑誌を見るのみで、それも歳と共に疎遠になることが多くなりがちでした。日本歯科医師会雑誌も毎月手元に届きますが、その内容は日進月歩の新しいものではありませんが、目次を見るだけでパスしてしまうことが多くなっている今日この頃です。

そのツケが巡りめぐって、引き続きこの委員会委員を更に務めよとのご下命。新会長の下、さらに広報・編集のブラッシュ・アップをめざし努力する所存です。今まで同様、委員皆様のお力に頼って微力ながら務めたいと存じます。

何卒、会員諸兄弟の皆様の厚いご協力、宜しくお願い申し上げます。

(今村嘉宣)